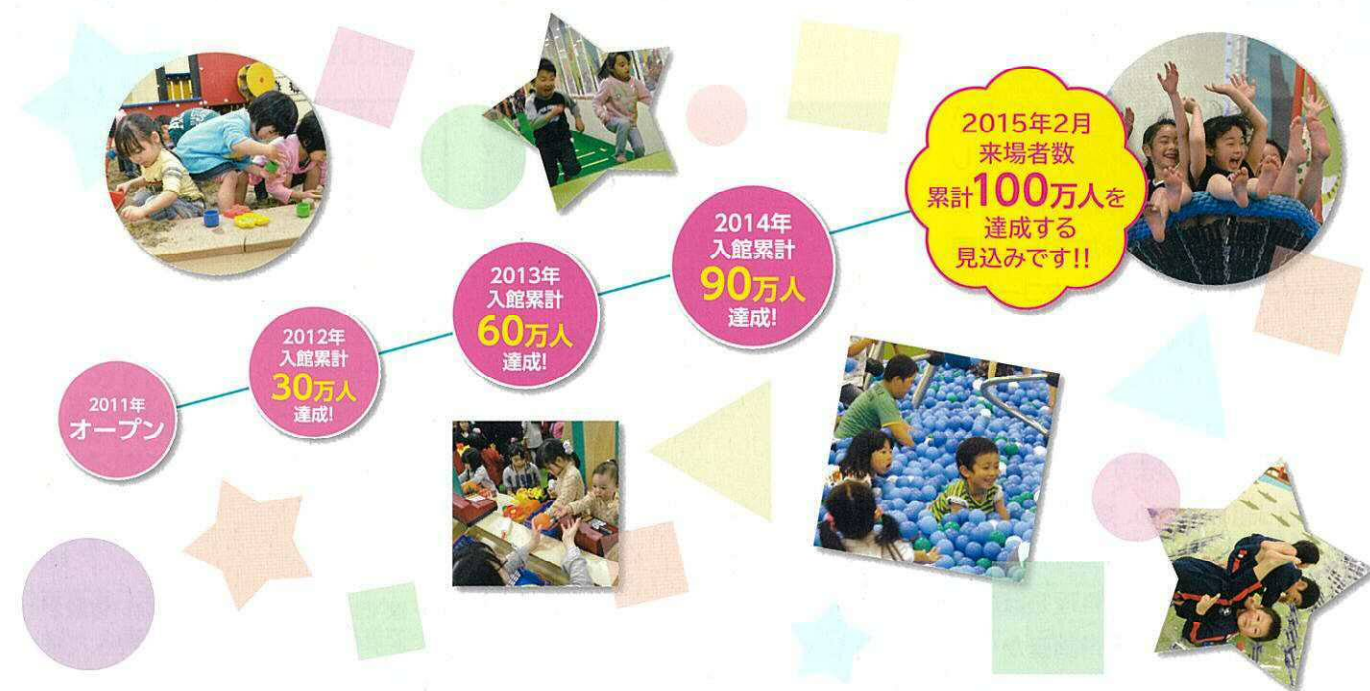
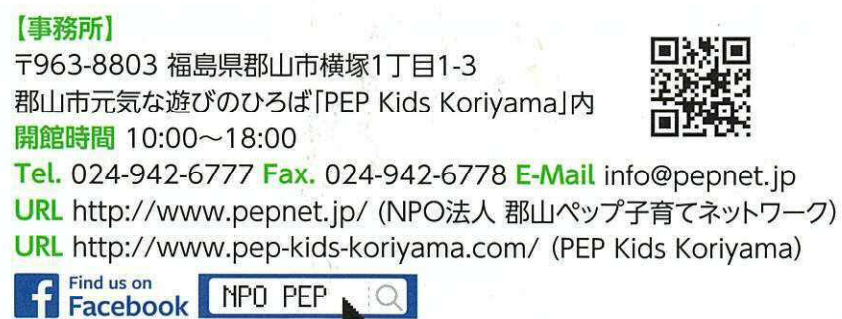


協賛団体・個人一覧



PEP Kids Koriyama 開設・リニューアルにご協力いただいた企業・団体の皆様	NPO法人 郡山ペップ子育てネットワークへ賛助およびご寄附をいただいた皆様	
	団 体	個 人
株式会社ヨークベニマル	株式会社協和	菊池壽子
株式会社ボーネルンド	株式会社フレッシュシステム	梶本陽子
株式会社ライフフーズ	あづま食品株式会社	横尾哲也
大槻電気通信株式会社	一般社団法人 郡山医師会	横山美貴
株式会社ABC Cooking Studio	株式会社ネギ	肥沼悟郎
エマニュエル・ムホー アーキテクチャー+デザイン	株式会社ニラク	安藤友彦
佐藤工業株式会社	株式会社ヨークベニマル	勝井丈美
高柳電設工業株式会社	富士ゼロックス福島株式会社	大高喬樹
株式会社岡村製作所	株式会社東邦銀行	菊池清子
セコムエンジニアリング株式会社	医療法人仁寿会 菊池医院	(他226名様)
株式会社波デザイン	イセ食品グループ	
郡山市震災後子ども心のケアプロジェクト	コンフェックス株式会社	
株式会社セブン&アイ・ホールディングス	株式会社郡山大新青果	
公益財団法人 ヨークベニマル文化教育事業財団	佐藤株式会社 (他93社様)	

※順不同、敬称略



～子どもたちの笑顔と元気のために～
2011年のオープンから現在まで……3年間の歩み





株式会社ヨークベニマル 代表取締役社長

大高 善興

PEP Kids Koriyama開設3周年おめでとうございます。震災直後の重苦しい雰囲気の中で、「福島を担う子どもたち」への熱い思いからPEP Kids立ち上げを積極支援した立場としても、大変喜ばしい節目です。株式会社ボーネルンド様や株式会社ABC Cooking Studio様はじめ、関係各位には多大なるご支援を頂いてまいりましたとは言え、この3年間の、アクティブ・キッチン両スタッフのご苦労は大変なものであったと思います。ボランティア精神を良く発揮されて、十二分の活躍をいただいていると感謝致します。この間の福島県経済は、大震災直後に減少した県農業産出額、観光客数の回復に加えて、工場の新増設数の増加という復興状況に有ります。また、出生率や有効求人倍率は全国平均を大きく上回り、交通網などの復旧整備も加速してきております。全ての事が、この地に残って何とか復旧復興しようという方々の気持ちから発せられているのではないかと考えてなりません。PEP Kidsの活動自体も、順調に進捗しているように感じられます。運営業務委託を受ける「郡山PEP子育てネットワーク」はNPOとして人心一新し、スタッフもより充実してきています。



NPO法人 郡山ベップ子育てネットワーク理事長

菊池 信太郎

PEP Kids Koriyamaは3歳になりました。世界へその名が届くようにと、あえて横文字の名前を付けました。「PEP」とは、「元気な」という意味です。子どもたちが言いやすく、語呂もよく、「PEPへ行こう!」と子どもたちが口にしやすかったです。期待していた通り、「PEP!」がだいぶ浸透してきたことを嬉しく思います。PEP Kids Koriyamaに何度も遊びに来てくれる子どもたちには、大きな変化が現れます。遊び方や身のこなし方が洗練されるのみならず、言葉使いや挨拶、自分から片付けをするなどの成長もみられます。PEP Kids Koriyamaでただ単に遊ぶだけでなく、人としての成長も促せればと願っています。場内に掲示した「CREDO」に、その思いが込められています。震災をきっかけとして、福島県内には数多くの屋内遊び場が設置されました。その先駆けとなったPEP Kids Koriyamaには、県内外から数多くの行政や子育て関係者が見学にいらしています。PEP Kids Koriyamaの規模、遊具の数々、そして実際に遊んでいる子どもたちの表情に、一様に驚いています。それだけ今の日本には、子どもが生き生きと遊べる場所や、遊んでいる子どもたちの姿がないのでしょう。子どもにとって、「遊び」は全ての基本です。体を使った遊びを通して、子どもたちは自分の体を上手に動か

外部支援を含む館内各種イベント実施も、参加者の増加により、当初目的の「遊び・学び・育つ」の達成に向け、その歩みを確実に進めています。また、郡山市の経済的・人的バックアップ継続も大変心強いものです。利用者の皆様方のニーズ対応を優先した遊具やレイアウトのリニューアルも、日ごとその効果を上げてきているのではないのでしょうか。今後も協力を惜みず、支援を続けてまいります。PEP Kids開設当時、ある利用者の方から頂いた「感謝の葉書」の内容が今も私の心に残っています。そこには、楽しく遊んだ上、企業協賛の大きなお菓子袋を大事そうに抱えた幼児の「おかあさん、ほうしゃのうがなくなったらベップもなくなっちゃうの?」という言葉に、涙しながら運転し帰宅したという内容が書いて有りました。今後もPEP Kids Koriyamaのより一層の成長と発展を、館内で発せられるエネルギーの隅々までが、常に、郡山市・福島県の子どもたちが日本一元気になる起点であることを、地域で事業をする者としていつも願っています。

す能力や器用さを身につけ、持久力を養っていきます。また、遊びを通して、人との交流、人への思いやりを学びます。日本の子どもが育つ環境は、日に日に厳しくなっていると言われています。そのような状況の中で、PEP Kids Koriyamaはこれからの日本に必要な、「子どもが育つ」とはどういうことなのか、そのためには何が必要なのかを、実際の形として表していると言っても過言ではありません。さらに、プレイリーダーの存在も重要です。プレイリーダーは、遊び方を知らない子どもたちを、おもしろおかしく遊びにのめり込ませ、そして徐々にその場から身を引いて子どもへ遊びの自主性を持たせる技術を学んでいます。PEP Kids Koriyamaには遊ぶ「空間」、「時間」、「仲間」と「プレイリーダー」が存在します。子どもの遊びにとって必要なすべての要素をもつ、まさに日本の遊び場のモデルです。PEP Kids Koriyamaはさらに進化を遂げていきます。きっかけは残念ながら震災でしたが、本当に子どもたちに今必要なことは何か? PEP Kids Koriyamaの存在が、いずれその答えを導き出してくれると信じています。これからもますますPEP Kids Koriyamaを応援して、そして是非何度も遊びに来て下さい!



■ベップキッズこおりやま



子どもたちに「本当に楽しい遊び場」を——その思いを実現したイベント・夏のキッズフェスタが、2011年8月に郡山市内にて開催されました。上記がきっかけとなり、地元企業、行政、そして有志の協力者が一体となり、常設の遊び場造りのプロジェクトが始動。構想から3ヶ月、2011年12月23日にオープンを迎え、以来2014年現在に至るまで、のべ90万人の来場者を迎えました。「遊び、学び、育つ」をコンセプトに、子どもたちが思いっきり体を使える遊び場の提供、「食べる」ことの大切さを親子で一緒に体感できるイベント・ワークショップを実施しています。

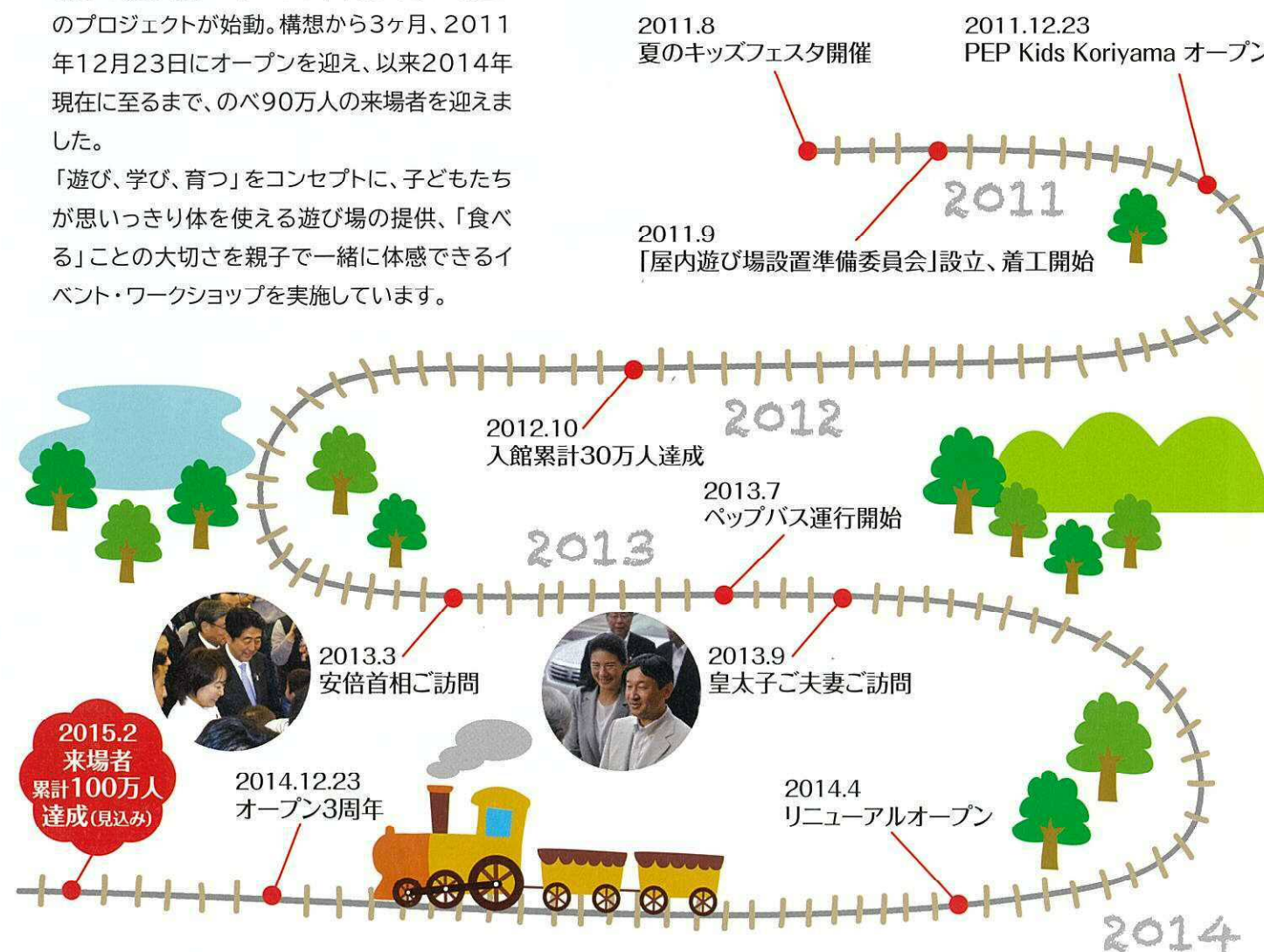


2011年12月23日 オープニングセレモニー



2012年10月4日 入館30万人セレモニー

■沿革



運営団体

NPO法人 郡山ベップ子育てネットワーク

東日本大震災後、持続する低線量の放射線環境下に暮らす子どもたちの、健やかな心身の育成を見守り、促す活動を目的として、平成24年5月に発足致しました。子どもたちが楽しく安全に遊び、運動ので

きる環境の提供・整備および心のケア、親御さんに向けた育児支援サービスの充実、放射線の知識および関連する健康相談などの啓蒙活動に取り組んでいます。





ペップコミュニケーション (セミナースペース)

実験やものづくり、大縄跳び……親子でふれあいがらチャレンジできる各種イベントを開催。子どもたちの知的好奇心や感性を引き出し、豊かな精神性を育みます。また、臨床心理士による親御さんへ向けた定期的な育児相談・セミナーを実施しています。



ペップキッチン

「食べる」ことの大切さ、「作る」ことの喜びを、実際に料理をしながら楽しく学べる施設です。五感を使って季節の野菜や果物を中心とした食材に親しむことができる調理体験は、子どもたちの自ら食べようとする気持ちを育みます。スタッフと一緒に取り組みますので、お子さんのみの参加でも安心。楽しく体験できるようサポートします。



ペップアクティブ

身体の発達が著しい幼少期に多様な動きを十分に経験し、身につけることは、子どもたちの健やかな成長を促します。PEP Kids Koriyamaの遊び場は、遊びを熟知した「プレイリーダー」が、身体発達段階に応じた「36の動き」を取り入れたアクティビティを通じて、子どもたちの遊びに対する意欲や運動効果を高めるサポートを行います。

遊ぶ

育つ



エアトラック



ハンギング



ボールプール



ベビーゾーン



屋外サーキット



ロールプレイゾーン



屋内砂場



アスレチック＆ランニングコース

～遊び、学び、育つ～

東北最大級の屋内遊び場・PEP Kids Koriyamaは、子どもたちが夢中になれる「しかけ」がたくさん。「遊び・学び・育つ」がコンセプトの館内は、「ペップアクティブ」「ペップコミュニケーション」「ペップキッチン」の3つのエリアに分かれています。

ペップアクティブは、さまざまな種類の大型遊具や、水遊びができる広い砂場、三輪車のサーキットなどがあり、思いっきり体を動かしながら遊べる空間です。ペップキッチンでは、調理体験を通じて、「食べる」ことの大切さを、楽しく学べます。ペップコミュニケーション(セ

ミナースペース)では、親子で体感できるイベントを定期的に開催。科学教室や運動・造形ワークショップ等の活動を通じて、考え、表現する力を育みます。また、親御さんに向けた育児相談・セミナーを開催し、子育ての不安へ寄り添うサポートを行っています。



■未来を育む「36の動き」

子どもたちを取り巻く生活環境において、近年では「3つの間」(空間・仲間・時間)が失われています。森や野原だけでなく、街中でも遊べる場所が少なくなり、かつ少子化や核家族化の進行により、友達と群れて遊ぶ機会が無くなる一方で、塾やゲームの普及により、体を動かす時間も著しく減少しているのです。しかしながら、幼少期に経験する体の「動き」は、身体機能のみならず「脳」や「こころ」の発達とも深い結びつきがあります。

山梨大学教授・中村和彦先生によると、人間の体の基本的な動きは36種類に分類され、これらが基本となって生涯にわたり複雑な心身の活動を支えているそうです。ゆえに体の発達が著しい幼少期に、多様な動きを十分に経験することは、子どもたちの健やかな

成長、才能の開花を大いに促進します。楽しみながら繰り返し遊ぶうちに、子どもたちは自然に体の動きが上手になってゆき、体力を高め、健康な心身を育むことができるのです。

PEP Kids Koriyamaは、子どもたちが「やってみたい!」と感じ、楽しみながら体を動かせる環境の下、できるだけ多様な動きを体得できるよう工夫されています。施設内に常駐する「プレイリーダー」が、体の発達段階に応じた「36の動き」を取り入れて、子どもたちの遊びに対する意欲や運動効果を引き出します。そのため、何度足を運んでも、おもしろおかしく遊べて成長できるしくみがあるのです。少しでも勇気を出して、ぜひ一つでも多くの遊びにチャレンジしてみてください。



©中村和彦(山梨大学大学院教育学研究科)
©NPO法人 郡山ペップ子育てネットワーク

運動神経がよくなる36の動作



来場者の声

- ・震災後に、子どもたちの遊ぶ場所として心の拠り所です。
- ・思いっきり体を動かせる貴重な遊び場です。
- ・体遊びだけでなく、手先や頭を使う遊びもあるため、子どもがとても楽しそうです。
- ・多くの子どもたち、そして保護者の方と出会える場所です。
- ・スタッフの皆さんには、子どもの相手や保護者の話し相手になっていただき、本当に感謝しています。

スタッフの声

- ・開館当初、赤ちゃんだった子どもと、今では会話ができるようになりました。子どもたちの成長を日々感じています。
- ・小学生の時に遊びに来てくれた子どもが、中学校の職場体験を通じてペップを再訪問。「将来、ペップで働きたい!」と言ってきて、思わず涙がこぼれそうになりました。
- ・初めて来てくださった保護者の方も、楽しそうに遊んでいる子どもを見るうちに、自然と緊張がほぐれて一緒に遊ばれています。そんな瞬間を見るとうれしくなります。
- ・初めて来館する子どもも、繰り返し来ている子どもも、遊びの中で自然と仲間になり、自分たちで遊びを創造します。それは、大人の想像の域をはるかに超えています!

■五感で楽しむ食育教室

季節の食材をもっと知ってほしい、おいしい食事を食べて元気に育ってほしい——。そんな思いから始まったペップキッチンでは、3歳から参加できる料理教室を開催しています。コックコートに身を包んだ子どもたちは、旬の食材を使ったメニューにチャレンジ。時には、子どもたちにとって初めてお料理をする機会となる回もありますが、スタッフと一緒に取り組めるため、楽しく安全に体験ができます。初めは緊張していた子どもも、最後には笑顔で料理をほおぼる様子を見かけます。食育講座から実習、試食まで、トータル90分の体験を終えた子どもたちの中には、嫌いな野菜が食べられるようになったり、おうちでお手伝いができるようになったりと、一回り成長した姿が見られました。



2014年8月22日
アイスイベント

来場者の声

- ・子どもが自分自身で調理を体験して、食材に興味を持つようになりました。
- ・家では食べない食材を、実習中に自分で作ったお料理では進んで食べていました。
- ・家ではけんかばかりだった子どもたちですが、実習中にお兄ちゃんが弟の面倒をよく見ていて驚きました。
- ・普段は親に甘えてばかりの子でしたが、自分の力だけでお料理を作り上げていて感動しました。
- ・家ではやらせてあげられない体験ができる場所に感謝しています。

スタッフの声

- ・子どもたちの元気な体をつくるため、食の面でサポートを発信しております。調理体験を通して、少しでも多くの子どもたちに食に興味を持ってもらえるよう、日々精進しております。
- ・日頃来てくれる子どもたちに、キッチンを通して「食べるって楽しい」「作るって楽しい」という気持ちを養ってほしいと思います。接してきました。キッチンで体験した「食べる」「作る」喜びを、私たちスタッフだけではなく、ご家庭の親御さんやご兄弟と「一緒に」体験する喜びへとつなげていてもらえたら幸いです。
- ・子どもたちが、初めはできなかったことがだんだんと上手になっていくのを見て、成長や喜びを感じています。「楽しかった、またやりたい!」と言葉をかけてもらえるキッチンを目指します。

ペップコミュニケーション

■親子で夢中になれるワークショップ

子どもたちの感性を高める各種イベントを、2011年7月より毎月定期的に開催。自然科学実験やものづくり、大縄跳びやベビーヨガなど、さまざまな活動を通じて、子どもたちの挑戦する力、知的好奇心を引き出し、豊かな精神性を育みます。また、一緒に夢中になって取り組める時間を通じながら、親子の絆を深めることができると好評をいただいております。その他、臨床心理士による親御さんへ向けた定期的な育児相談・セミナーを開催し、子育ての不安を解消するきっかけ作りを行っています。



2014年11月8日
臨床心理士による子育て相談会



2014年11月3日
科学実験教室「空気砲で遊ぼう!」